

令和2年度 事業計画書

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

誓 願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷さとに

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に誇りつつ

すべての人と働け

わが住む里さとに

一人の怠る者もなきまでに

令和2年度 基本方針

事業の充実・参加者拡大を図り、みんなでまこう！ 「ふれあいの種、思いやりの種、よろこびの種」

昨年5月、「令和」の新時代がスタートしました。そして、修養団は本年2月11日におかげさまで創立114周年を迎え、6月6日には創立者・蓮沼門三初代主幹の没後40年になります。改めて初代主幹が願い続けた「総親和・総努力・総幸福」の理想社会実現に向けて、令和の新時代における修養団のあり方を模索しつつ力強く歩んでいく決意を新たにします。

日本では少子高齢化が進み、2025年には団塊の世代が75歳を超えて国民の5人に1人が75歳以上になると予想されます。労働力不足から外国人材の受け入れが拡大するとともに、ロボット・人工知能(AI)による仕事の代替や情報化が急速に進み、改めて一人ひとりが働く意味や生き方を見直す必要に迫られています。

一方、世界に目を向けると、今なお各地で紛争や対立が絶えず、自国の利益を優先することにより国と国あるいは地域間の連帯や協力関係が薄れつつあります。また、地球温暖化による異常気象やマイクロプラスチック問題などの環境問題など、地球規模の諸課題に対する取り組みに消極的な傾向が見られます。

内外がこのような状況にあることを踏まえ、修養団は「愛と汗」を基本に《 幸せの種まき運動 》を一層強力に展開します。会員やクラブ・連合会と連携し、学校・教育委員会・諸団体の協力を得ながら、体験と学びの場である各種事業の充実と参加者拡大を図り、《 「こんにちは！」 という“ふれあいの種”、「どうぞ！」という“思いやりの種”、「ありがとう！」という“よろこびの種” 》の“三つの幸せの種”を家庭・職場・地域社会にまき、一輪でも多くの笑顔の花が咲くよう努めてまいります。

I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の将来を担い未来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、“愛と汗の精神”に基づいた自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年健全育成活動の充実を図る。また、愛と汗の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動や大震災などの被災者に対する支援活動を継続して展開する。

1. 子ども自然体験活動

子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活をとおして、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

ア. 「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援・子どもゆめ基金助成活動》

期 日	7月下旬～8月 <各3泊4日>
開 催 数	5会場（道南・桧原湖畔・瀬戸内海・鹿児島・沖縄） *道南は5名、桧原湖畔・沖縄キャンプは各10名の障がい児を募集（招待）
スタッフ等	各会場スタッフ10名、リーダー15～25名
対 象	小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各50～70名

イ. 伊勢青少年研修センター主催「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援》

期 日	7月下旬～8月 <各3泊4日>
開 催 数	3会場（富士山・愛知・関西）
スタッフ等	各会場スタッフ10名、リーダー30～40名
対 象	小学2年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各100～120名

ウ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日	7月下旬～8月 <各3泊4日>
開 催 数	4会場（いばらき、岐阜友愛、広島、北部九州）
スタッフ等	各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名
対 象	小学1年生～中学3年生の児童・生徒
募集人員	各50～70名

エ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日	6～7月 <各2泊3日>
開 催 数	5会場
派遣講師	各1～2名

オ. 印刷物の作成

①「子ども自然体験キャンプ」リーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》

部 数 24,000部

体 裁 A4版6頁、4色刷り

②「子ども自然体験キャンプ」報告書の作成

部 数 1,200部

体 裁 A4版、84頁

(2) 子どもわくわく自然体験キャンプ(招待)《子どもゆめ基金助成活動》

経済的に困難な中にある子どもたちを招待し、大自然の中で異年齢の仲間とともに野営による共同生活を行う。様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

期 日 8月12日(水)～14日(金) <2泊3日>

会 場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)

スタッフ等 スタッフ8名、リーダー15名

募集人数 50名(小学1年生～中学3年生の児童・生徒)

(3) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 子ども自然体験スキーキャンプ

開催数 2回 <各4泊5日> ①12月26日(土)～30日(水)

②令和3年3月26日(金)～30日(火)

会 場 ばんだいふれあいぴあ、箕輪スキー場等(福島県)

スタッフ等 各回スキー指導員2名、炊事員2名、SYD指導者3名(事務担当者含む)

募集人員 各リーダー 18名(高校生・大学生)

各キャンパー40名(小学1年生～中学3年生)

イ. 報告書の作成

部 数 200部

体 裁 A4版、46頁

(4) 子どもWAKU×2ひろば《子どもゆめ基金助成活動》

リーダー研修会では、自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年指導者が集い、専門家や実践者を講師に招き、さまざまな体験活動やその展開方法について学習し、新たな視点に立って週末体験活動を展開実践する。

ア. WAKU×2ボランティアリーダー研修会

開催数 全国18会場

期 間 通年 <各1日～1泊2日>

イ. 子どもWAKU×2ひろば

開催数 全国13会場

期 間 通年 <各1日～1泊2日>

(5) 東京キラリン・ウォーク《子どもゆめ基金助成活動》

東京オリンピックを記念して、小・中学生が「勇気」「元気」「やる気」を実践する場として都内をウォーキングする。

期 日 令和3年3月(1日)

コ ー ス 都内のオリンピック会場をめぐる約20km

スタッフ等 スタッフ・リーダー等40名

募集人員 小・中学生50名

(6) 夏期少年少女合宿講習会(青年会議所等との共催事業)

開 催 数 4回(7~8月)〈各2泊3日〉

会 場 伊勢青少年研修センター(三重県)

対 象 小学生

定 員 各60~100名

共催団体 (一社)伊勢青年会議所、(公社)岸和田青年会議所、(一財)日本教育再生機構
大阪茨木支部、橿原ロータリークラブ

(7) 第22回40kmナイトウォークの集い

期 日 9月12日(土)~13日(日) 〈初日夕~2日目午前〉

会 場 伊勢青少年研修センターほか(三重県)

対 象 小学3年生以上の子ども・一般

定 員 100名

2. 子どもボランティア推進活動

“愛と汗の精神”に根ざした様々なボランティア活動を実践することにより、人のため、社会のために行動することの素晴らしさや真の喜びを体感する。お互いに理解し合い、分かち合い、豊かな感性を磨き、思いやる心や心豊かな人間形成に寄与する。

(1) 第6回SYDきらめきメッセージ全国コンクール《文部科学省後援》

青年らが困難を乗り越えて体験した心のきらめき、ブレイクスルー(壁を乗り越え前進すること)、自分の中の奇跡・・・、そこから生まれた思いやメッセージを応募し、入選者は全国コンクールで発表することにより、青少年のやる気、元気を育てる。

ア. 応募資格・部門(小学校1年生~満25歳)

★小学生の部、★中学生の部、★高校生の部、★大学生・青年の部

*締切日 11月30日(月)

イ. 入賞発表

一次審査会において部門ごとに入選作品2~3点(計10~12点)を選考した上で、2月に全国コンクールを行う。

ウ. 全国コンクール

入選作品を本人が発表し、選考・表彰する。

期 日 令和3年2月13日(土)

会 場 SYDホール(東京)

表 彰 ◎文部科学大臣賞1点、◎理事長賞1点、◎優秀賞2~3点、◎きらめき賞数点
*各賞は、記念クリスタル盾および副賞

(2) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援》

地域、学校、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介する。ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解することにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、青少年の豊かな心を育むことを目的として全国的に開催する。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」

期 日	通年
開 催 数	全国30会場
実施組織	学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、SYD連合会等組織
派遣講師	各2～3名（SYD講師及びフィリピンでのボランティア経験者）
実施概要	・参加者 各会場15名以上 ・プログラム 90分(標準) ほか

イ. パンフレットの作成・配布

部 数	6,000部
体 裁	A4版、8頁、4色刷り
配布先	5,000ヵ所

(3) 被災地訪問青少年ふれあいボランティア《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

東日本大震災被災者の暮らす復興住宅を訪問し、手作りのカレーやコーヒー等を提供するなかで、被災者やその子どもたちとふれあい、協力し合い、話し合い、喜びを分かち合う活動を行うほか、他の災害被災地で支援活動を実施する。このことにより、青少年がボランティア活動の真の喜びを体感し、思いやる心や豊かな人間性・社会性を高め、自ら考え・行動する力を育む。

開 催 数	5回（3連休や期間休みに実施）＜各2泊3日＞ *SYD組織と連携して行う特別開催1回を含む
開 催 地	東日本大震災被災者復興住宅等（宮城県石巻市・名取市）他
対 象	真に被災者のことを考え行動できる青少年
募集人員	各リーダー3名（大学生等青年） 各参加者15名（中学生～高校生）

(4) 青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開 催 数	6回 <各2時間>
講 師	各1名（国内外のボランティア経験者等に委嘱）
会 場	SYD会議室（東京都）
対 象	東京近郊の青年リーダー
募集人員	各20名程

3. SYD指導者の養成

自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、“愛と汗の精神”を日常的に実践するSYD指導者の養成に努める。

(1) 全国青年ボランティア・アクション in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

福祉・災害ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設、東日本震災被災者の暮らす復興住宅等での社会奉仕活動を実践し、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得することにより、ボランティア精神を涵養し、指導者としての資質の向上を図る。

期 日 令和3年3月31日(水)～4月5日(月) <5泊6日>
開催地 福島県及び被災地等(宮城県石巻市、名取市)
スタッフ等 SYD指導者等5名
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年
募集人員 25名

(2) 全国青年ボランティア・フォーラム《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

幅広い分野でのボランティア活動についての協議を行い、ボランティアグループの活性化や老壮青の幅広い年代層を取り込んだボランティアを模索し、実践する青年リーダーの育成を図る。

期 日 11月21日(土)～23日(月・祝) <2泊3日>
会 場 国立信州高遠青少年自然の家(長野県)
実 施 青年有志による実行委員会が企画・実施
募集人員 30名(全国の中学生・高校生・大学生等の青少年)

(3) 全国青年ボランティア・フェスティバル《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

ボランティア活動や活動の中での気づきや思いを発信する機会として開催し、そこから明るい社会を築くために、あるいは周りや自分自身を輝かせるために何ができるかを考え、今後の活動の促進を図るための青年リーダーを養成する。

期 日 令和3年2月13日(土)～14日(日) <1泊2日>
会 場 SYDホール・国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)
実 施 青年有志による実行委員会が企画・実施
募集人員 40名(全国の中学生・高校生・大学生等の青少年)
プログラム SYDボランティア奨励賞贈呈式、きらめきメッセージ全国コンクール等

* 報告書の作成

上記3事業の報告書を作成し、事業の成果を広く一般に広報する。

部 数 600部
体 裁 A4版、86頁

(4) SYD指導者資格認定制度

“愛と汗の精神”を理解し、自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目的としたSYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

4. 青年組織育成

“愛と汗の精神”に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して実践する青年部組織の育成・充実に努める。

(1) 青少年活動（キャンプ）担当者会議の開催

期 日 5月4日（月・祝）～6日（水・振） <2泊3日>
会 場 ぼんだいふれあいぴあ（福島県）
講 師 1名
指 導 者 3名
参 加 者 20名

(2) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。

ア. 指導者の派遣

回 数 5～6回
期 間 各1日～3泊4日

イ. 青年組織活動への助成

5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

II. 国際交流

1. フィリピンとの交流事業

(1) 交流20周年記念事業/青年ボランティア・アクション in フィリピン《文部科学省後援》

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ山で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。このことにより、自ら生きる意味を模索し、国際的視野を広げ、国際協力の精神を涵養し、国際協力における実践力を培い、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日 8月18日（火）～24日（月） <6泊7日>
訪 問 地 マニラ市、ケソン市 等
ス タ ッ フ 2名
参 加 者 青少年27名（満15歳から25歳未満の青少年）
支援者3名（満25歳以上の支援者及び今後支援をしようとする人）
主 な 活 動 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動や支援品や食事の提供などのボランティア活動等を行う。

2. ブラジルとの指導者交流事業

(1) 指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢での講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修により、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

ア. 青年指導者の養成

期 日 8月上旬～9月上旬 <約28日間>

招 聘 者 青年リーダー2名(ブラジル修養団推薦者)

イ. 講師の養成

期 日 令和3年2月上旬～2月下旬 <約21日間>

招 聘 者 1名(ブラジル修養団推薦者)

(2) 講師の派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 令和3年1～2月 <約35日間>

派 遣 者 SYD講師1名

3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体の社員等または個人を対象に、“愛と汗”の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

1. 伊勢講習会

(1) みがく講習会

期 日 4月～令和3年3月 <各3泊4日>

開 催 数 9回

定 員 各60名

*4月(第1208回)は新型コロナウイルスの影響で中止

(2) みがく特別講習会

期 日 令和3年2月～3月 <各1泊2日>

開 催 数 5回

定 員 各100名

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭特別講習会

期 日 ①10月15日(木)～17日(土) <2泊3日> 初穂曳き・神嘗祭コース
②10月16日(金)～17日(土) <1泊2日> 神嘗祭コース
定 員 ①+②で90名

イ. 初詣新春の集い

期 日 令和3年1月9日(土)～10日(日) <1泊2日>
定 員 60名

(4) 受託講習会

ア. 2泊3日コース

開 催 数 3回(9月、10月、11月)
定 員 各80名

イ. 1泊2日コース

開 催 数 11回(通年)
定 員 各20～100名

(5) 一般講習会

開 催 数 7回(通年)
定 員 各30～50名

(6) 講演活動

企業・各種団体の依頼により講師を派遣する。

2. 関東・東北地区等講習会

(1) 新入社員セミナー

ビジネスマナーや挨拶訓練等を通して学生から社会人への意識変革を図るとともに、講話や体験学習により“愛と汗”の人づくりを目的として開催する。

期 日 4月13日(月)～15日(水) <2泊3日>
会 場 みなとや(福島県猪苗代町)
定 員 60名

*新型コロナウイルスの影響で中止

(2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、ブラインドウォークや水行等の体験を通し、新たな「気づき」をうながすことで心身をリフレッシュさせ、日々の生活に一層の活力を生むことを目的として開催する。

期 日 令和3年2月3日(水)～5日(金) <2泊3日>
会 場 みなとや(福島県猪苗代町)
対 象 18歳以上
定 員 30名

3. 受託セミナー

多様な企業・団体等の人材育成の要望に応える修養団ならではのセミナーを企画・実施し、広く“愛と汗”の精神の普及に努める。

実施予定回数 50回

(1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心”“信じ合う心”“感謝の心”の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を築くことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

(2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にする心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

(3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

(4) 一般社員セミナー

1社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・幹旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション・キャンプ等のプログラムを企画立案し、指導者派遣の一層の拡大を図る。

IV. 家庭教育活動

1. 家庭《共育》セミナー

大人と子どもが「共に育ち」、家庭・学校・地域等が子どもたちを「共に育てる」中で、幸せな家庭、生き生きとした地域社会の実現に向け、親子や家族のあり方、高齢社会での世代間交流など、身近な課題に取り組むセミナーを開催する。開催地の要望に合わせ「講演会」「セミナー」「ふれあい広場（散策、文化活動、ボランティア活動など）」の形式で実施する。

開催数 10会場 <各半日～1日>

期間 通年

参加者 各20～100名

講師 各1～2名

V. 会員組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、“愛と汗”を基本理念に下記事業を展開し、心ひとつにして「幸せの種まき運動」を推進する。

(1) 愛汗実践塾

本年は、創立者・蓮沼門三初代主幹の没後40年を迎える。この期に創立の原点に帰り“愛と汗”を基本とした修養団の理念を学び、「幸せの種まき」を実践するための意識を高める機会として、連合会・クラブ等を実施団体とし研修会方式を用いて各地で開催。会員組織の活性化や後継者育成、会員拡大を図る。

開催数 10会場（標準日程10時～17時）

参加者 各30名程度

講師 各2名（SYD講師）

(2) 第12回「チャリティー演芸会」ーストリートチルドレン支援ー

開催日 6月19日（金）

演者 宝井琴鶴 立川らく次 春風亭ぴっかり☆ 立川らく人

会場 SYDホール（東京都）

(3) 第4回「東京ベルズ」チャリティコンサートーストリートチルドレン支援ー

開催日 10月17日（土）

会場 SYDホール（東京都）

(4) 「幸せの種まき祭り」ーストリートチルドレン支援ー

開催日 11月14日（土）

会場 SYDホール、SYDビルエントランスなど（東京都）

2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動(幸せの種まき)をすすめるために、会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

(1) 第9回「全国修養団運動推進会議」

蓮沼門三初代主幹の命日にあたる6月6日に各クラブ・連合会の代表者が一堂に会し、創立の精神に帰って心をひとつに修養団運動のさらなる発展のための協議を行うとともに、各会員組織間の情報交換等を行う。

開催日 6月6日（土）

会場 SYDホール（東京都）

参加者 主なクラブ・連合会の代表者またはそれに準ずる人 35名

(2) 講師等の派遣

各クラブ・連合会の活動活性化に向け、各組織の要望に応じて講師を派遣する。

派遣回数 20回程度（随時）

(3) 活動助成金の支出

各クラブ・連合会からの申請を受けて活動助成金を交付し、組織活動の拡充と活性化を図る。

(4) 会員加入促進活動

ア. 本団主催セミナーおよび受託セミナー等の実施・開催に合わせて受講者に見本誌を配布し、加入促進を図る。

イ. 各連合会・クラブを通じ、未会員および家庭《共育》セミナー、愛汗実践塾等の事業参加者に対して加入促進を図る。

(5) 皇居勤労奉仕団（実施：伊勢青少年研修センター）

開催数 2回（5月・11月）

定員 各40名

(6) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日（8月を除く）に各1,000～1,100部発行し、各会員組織等に配布する。あわせて、ホームページでも全記事を掲載して広報する。

3. SYD将来計画プロジェクト「令和」

昨年9月にスタートした職員4名で構成する同プロジェクトにおいて、10年後20年後の社会を予測した上での今後のSYDの在り方（運動展開等）について引き続き検討する。

VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや国内外の大災害の被災者、福祉施設等を支援する。

1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報活動で広く募金を呼びかけ、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフレットを作成配布し、この活動への理解者・協力者を広げる。

2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちの学資支援をはじめとする支援活動を継続して行うとともに、国内外の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。支援先や支援方法については、「幸せの種まき献金」委員会で定期的に検討する。

VII. 出版・広報活動

1. 機関誌『向上』『愛』の発行

(1) 『向上』

自分を高めること、身近なところから“幸せの種”をまくことの大切さを実感し、行動に移すために役立つ記事を掲載する。各界著名人の随想、専門家による「より良く生きる」ことへのヒントや学びとなる内容のほか、修養団や会員組織による事業・活動を紹介します。広く興味をもってもらえる誌面とする。

(2) 『愛』

温かな人間関係づくり、子育てや暮らし、心豊かに生きるための参考となる記事のほか、青少年の自然体験活動やボランティア活動等をわかりやすく紹介して、特に女性や青少年に役立つ内容とする。

2. 令和3年版「日々の力」の制作・販売

作 者 (絵と文字) 神門やすこ (墨絵作家・イラストレーター)
販売目標 15,500部 (制作16,000部)

3. 教育図書の普及、教材の販売

『蓮沼門三の言葉110』、『人生のことば365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

VIII. 施設運営事業

1. 伊勢青少年研修センター

- ・みがか講習会、みがか特別講習会等主催事業の活動拠点として運営する。
- ・他団体との共催による講習会、研修会の会場として利用を促進する。
- ・地域の諸団体との連携をさらに強め、活動会場として広く供する。

2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに諸団体の利用に供し、有効活用に努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。

4. 関西会館

- ・賃貸スペースの適正管理に努める。

IX. 表彰等

1. 第15回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、広くボランティア活動に対する意識を高め、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

(1) SYDボランティア奨励賞贈呈式

贈呈式 令和3年2月13日(土)
会 場 SYDホール

(2) 募集パンフレットの製作・配布

体 裁 A4版、2頁、4色刷
部 数 18,000部
配 布 先 18,000カ所

2. 令和2年度修養団功労者表彰

修養団運動の発展に寄与した功績顕著と認められる個人ならびに団体を顕彰する。

X. 諸会議の開催

1. 理事会

期 日 5月・12月・令和3年3月（3回）
会 場 SYD会議室（東京）

2. 第9回評議員会

期 日 6月5日（金）
会 場 SYD会議室（東京）

3. 後援会役員会

期 日 6月
会 場 SYD会議室（東京）